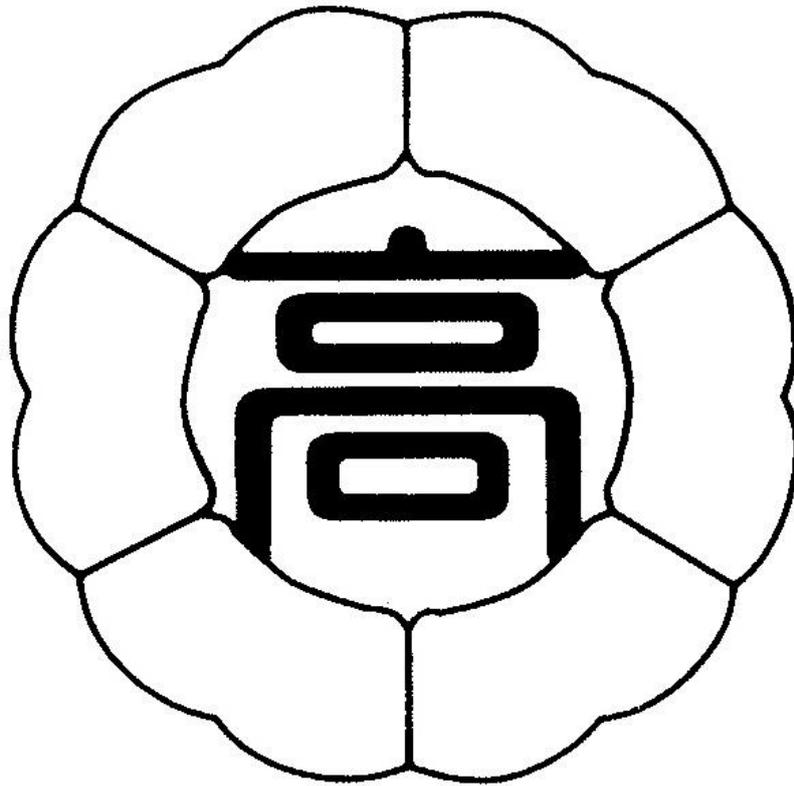


2024年度 函館大谷高等学校
第三者評価報告書



2025年3月31日

北海道大谷学園連合会相互評価委員会

北海道大谷学園連合会評価委員会

主 査	中西 猛雄 (北海道教区大谷学園委員会委員)
主査代理	土山 泰弘 (北海道教区大谷学園委員会委員)
委 員	寺澤 三郎 (所長推薦・第13組教證寺住職)
委 員	丸山 政秀 (函館大谷高等学校 校長)
委 員	竹本 将人 (北海道大谷室蘭高等学校 校長)
委 員	木村 泰優 (稚内大谷高等学校 教頭)
委 員	佐藤 健一 (函館大谷高等学校 事務長)

日程

2024年10月10日	相互評価委員選定
10月30日	自己評価報告書確認
11月14日	第1回相互評価委員会
12月 6日	訪問調査
2025年 3月	第三者評価報告書完成

設 置 者 学校法人 函館大谷学園

函館大谷高等学校の概要

設 置 者	学校法人 函館大谷学園
理事長名	門間 佳一
校 長 名	丸山 政秀
開設年月日	1888 (明治21) 年11月
所 在 地	函館市鍛冶1丁目2番3号
設置学科	普通科 (普通コース・体育コース)
入学定員	130名
教職員数	総数 48名 (常勤 26名 非常勤 22名)

調査結果

I 建学の精神・教育理念、教育目標・学校目標

【建学の精神、教育理念について】

私立学校の運営は、あらゆる場面において「建学の精神」「教育理念」を基に実施されることが前提である。函館大谷高等学校では、人間教育を基本とした教育活動が行われ、その随所において、親鸞聖人のみ教えを依り所としていることが理解できる。

学園理事長による建学の精神を中心とした講話を通して、学園職員として大切にしていけるべき考え方を教職員研修として実施している点は、学園の理念共有につながっている。

教職員必携の「いのちの願い」にこめられた学園の思いを、どのように生徒に具現化するかは、更なる研鑽を期待するものである。

【特記事項について】

“人間大好き”のスローガンに表されている通り、生徒一人ひとりを大切にする教育が実践されていると理解できる。特に「選ばず、嫌わず、見捨てず」という表現は、高校に限らず教育に携わるすべての関係者が元来念頭に置き、教育活動に努めるべきであることを今一度確認をさせてもらえる言葉である。

函館大谷高等学校のみならず、多くの教育機関において、行事、生徒募集、他あらゆる学校運営において実践されることを願うものである。

II 分掌

【教育課程・学習指導（教務）】

地方都市に籍を置く、私立学校の多くが直面している問題点と真摯に向き合う姿勢が見受けられる。

建学の精神を基とした教育活動や生徒募集において、学園として忘れてはならない理念を大切にしつつ、次世代の教育にも目を向けていく取り組みが実践されており、今後の進展を期待したい。中でも、教育課程（カリキュラム）の運用において、また、コースや系統の違いによる学年、学級運営に関して、学校状況や実態に即したものに変わっていく必要性の共有を進める努力と、これまで積み重ねてきた教育活動との関係性において、学園内で更なる教職員の意思統一がなされることを期待する。

【入試・生徒募集】

令和6年度の新入学生徒数からも、多くの中学生より選ばれる結果となったことが理解できる。これまでの取り組みが評価されたものであると称賛されるべきことであると同時に、単年度にとどまることなく、引き続いての生徒募集への取り組みを期待している。

偏に、一人ひとりを大切にする学園の理念が、信頼されていっていることの表れであると考えられるが、今後も根幹となる「建学の精神」に基づいた教育の姿勢を、学園教職員一同失念することなく取り組まれることを大いに願うものである。

Ⅲ 管理運営（ガバナンスの確立）

函館地区は、今後 15 年間で函館市、並びに渡島管内の中卒者が半減することが予想され、現状の公立高校配置計画案では不十分と言わざるを得ないほど急激に少子化が進んでいる。その中で、令和 4 年度 134 名、令和 5 年度 119 名、令和 6 年度 147 名の入学生を確保されており、様々な教育活動が評価されていることが伺える。特に部活動生徒の入学が増加しているようであり、今後にも期待できると思われる。

Ⅳ 財務

財政面は、令和 5 年度事業活動収支計算書における経常収支差額が、37,561 千円の収入超過であり、健全な財政状況といえる。また、管理運営費補助金に関しては、スポーツ・文化活動の充実や非行・犯罪被害防止等のための授業等、様々な教育活動が評価され安定している。学校評価（自己点検・評価）及び積極的な情報提供への取り組み状況についても、関係者評価並びに第三者評価が加点されており是非見習いたい。

施設設備では、昨今の暑さの対策として空調設備が整備され、快適な教育環境を構築している。計画段階でランニングコストを重視した設計が成されている点も評価できる。

Ⅴ 改革・改善

学校の特色化、魅力化の推進に大いに期待したい。近年、入学生徒数の増加というかたちで教育活動への周囲の評価が高まっていることは理解できるが、北海道私学の課題でもある固定観念やイメージの打破、改善を強く必要としていることも訪問調査の聞き取りから実感できた。

「建学の精神」を基とした理念を信じて実践、継続することと、地域が求める函館大谷高等学校の姿を追求し続け、多くの幅広い対象から「選ばれる学校」に進展していくことを共に願っている。

以上、今回、函館大谷高等学校の教育活動について評価をさせていただきましたが、本校としても多くのことを学ぶ機会となりました。今後の教育活動の参考にさせていただきたいと存じます。

丸山校長先生をはじめ、ご対応いただきました皆様には、多くのご助言をいただき、誠にありがとうございました。衷心より感謝申し上げます。

以 上